

# 都市再生整備計画(第4回変更)

あさくさ  
浅草地区

とうきょうと たいとうく  
東京都 台東区

平成24年3月

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	とうきょうと 東京都	市町村名	たいとうく 台東区	地区名	あさきさ ちく 浅草地区	面積	157 ha
計画期間	平成	20	年度	～	平成	24	年度
交付期間	平成	20	年度	～	平成	24	年度

### 目標

- 大目標: 国際観光都市としての魅力を高め、新たな賑わいを創造するまちづくり
- 目標1: アクセス環境充実による集客力、回遊性の強化
- 目標2: 歴史・伝統文化を活かした観光都市としての魅力の向上
- 目標3: 隅田川の水辺の活性化

### 目標設定の根拠

#### まちづくりの経緯及び現況

- 経緯
- 浅草地区は、浅草寺を中心に発展してきた寺町地域で、江戸時代から多くの庶民が訪れ栄えた。明治時代には六区等の歓楽街も出現し、娯楽・芸能の中心として現在にも受け継がれているが、歓楽街としては他の地域と比較すると衰退は否めない。しかし年間を通して伝統的な祭りや行事が開催され、下町の歴史文化に触れるべく外国人を含め多くの観光客が訪れる日本を代表する観光拠点である。
  - 地域の東を流れる隅田川は古くから輸送路・交通路として活用されてきたが、鉄道・道路交通の発達により水上バスや屋形舟等観光目的の利用が中心となってきている。また、高度成長期に悪化した水質も改善され、防災目的の護岸整備と親水性の向上を両立するよう親水テラスの整備が行われ隅田公園とともに人びとの憩いの場となっている。
  - 浅草駅には東武鉄道、東京メトロ、都営地下鉄が乗り入れターミナル駅となっているが、墨田区押上における東武鉄道と東京メトロとの相互乗り入れ開始により、利用者数が減少している。つくばエクスプレスの開通により首都圏北部から交通の利便性が向上し、新たな人の流れが見られるが既存の駅とは離れているため、歩行者の回遊性・各駅相互の連携強化が求められている。
  - 平成16年7月に地元観光関係者、関係機関で構成される「浅草地区観光まちづくり推進協議会」が設置され、観光推進を目的としたまちづくりが協議されている。
  - 平成17年3月に新タワーの建設場所が墨田・台東エリアとして墨田区に決定し、新たな集客拠点となることが予想されることから、地元観光関係者から大きな関心が寄せられている。
  - 平成18年6月に区が学識経験者、関係機関、地元関係団体等で構成する「浅草地域まちづくり検討委員会」を設置し、浅草地域のあるべき将来像を検討し、平成19年6月に「浅草地域まちづくり総合ビジョン」としてまとめた。

#### 現況

- 本計画は、台東区長期総合計画、台東区都市計画マスタープラン、台東区観光ビジョンと適合している。

#### 課題

- 都心部、隣接地における大規模再開発等により新たな集客拠点が生まれることにより、集客地としての相対的な魅力の低下が懸念されている。浅草地区の大きな特徴である歴史・文化を活かした個性的なまちづくりを行い魅力を高める必要がある。
- 浅草文化観光センターを中心に情報発信力を強化し、他地域の賑わいを呼び込む回遊性の強化を図り、国際観光都市にふさわしいまちづくりを行う必要がある。
- 墨田区に建設予定の新タワーにより人の流れの変化が予想される。この変化を的確にとらえ波及効果が得られるよう新交通システムの導入等回遊性を強化し、新タワーと連携したまちづくりを行う必要がある。
- 浅草駅はターミナル駅となっているが鉄道各線の連結性が弱く、乗り換えが不便である。また、鉄道だけでなく観光バス、水上バスを含めた交通結節点として、浅草の玄関口にふさわしく整備する必要がある。
- 隅田川と公園が連携した自然に憩う空間になるよう、親水テラスの整備とあわせ新タワーが見えるロケーションを活かした隅田公園の改修が必要である。
- 隅田川下流の浅草橋・蔵前との回遊性強化に水辺ルートの利用が重要である。JRの利用者を問屋街を経由し親水テラスへと導くルートを確立する必要がある。

#### 将来ビジョン(中長期)

- 平成17年3月に策定された台東区長期総合計画に、都市基盤整備として浅草駅周辺地区の整備が計画事業に位置づけられている。
- 平成18年6月に策定された台東区都市計画マスタープランにおいて、浅草中部地区は地域整備の方針として「江戸文化を世界に向けて発信する粋なまち」①伝統ある文化を活かした活気と賑わいのある商業空間の整備②下町文化にふれる歩行者ルートの形成③国際観光都市浅草にふさわしいまちづくりの推進④江戸の風情を感じる街並みの形成⑤隅田川を基調とした景観形成と親水性の向上、があげられている。
- 平成19年6月に策定された浅草地域まちづくり総合ビジョンであるべき将来像が提示されている。

### 目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性		目標値	
			従前値	基準年度	目標年度	
観光センター利用者数	人/年	浅草文化観光センターの年間延べ利用者数	484,929	18	570,000	24
隅田公園の利用者数	人/日	隅田公園内の公園橋(桜橋) 1日(午前9時から午後5時)の通行量	3,016	19	3,300	24

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・新タワーを初めとした近隣の集客拠点との回遊性を強化することにより、容易に行きかうことができるようにし、これまで浅草地区には縁のなかった新たな客層を掘り起こし賑わいが広がるようにする。</p>	<p>専門家の派遣：提案事業(まちづくり活動推進事業)</p>
<p>・伝統文化を活かしたユニバーサルデザインによるまちづくりの推進、浅草文化観光センターを拠点にした情報発信力の強化により、国際観光都市としての魅力を高め、国内外の多くの人びとが訪れ、長く滞在するようにする。</p>	<p>浅草文化観光センターの建替え：高次都市施設(地域交流センター、観光交流センター)</p>
<p>・水上バスも含めた交通結節機能の強化、震災時火災における避難場所として地域の防災拠点となっている隅田公園一帯を、新タワーが見えるロケーションを活かした公園として整備する、親水テラスを利用した南北水辺ルートの確立により、水辺を地域住民だけでなく観光客も含めた人びとの憩いの場となるよう活性化する。</p>	<p>浅草文化観光センターの建替え：高次都市施設(地域交流センター、観光交流センター) 隅田公園整備：公園 サイン整備：高質空間形成施設 カラー舗装：高質空間形成施設</p>
<p><b>その他</b></p>	
<p>・学識経験者、関係機関、地元関係団体等で構成する「浅草地域まちづくり検討委員会」を設置し、浅草地域のあるべき将来像を検討し、平成19年6月に「浅草地域まちづくり総合ビジョン」としてまとめた。当ビジョンの具現化にあたり、「浅草地域まちづくり推進協議会」を設置し引き続き地元関係団体等と連携し事業を推進する。</p>	



都市再生整備計画の区域

あさくさ ちく とうきょうと たいとうく <b>浅草地区(東京都台東区)</b>	面積	157 ha	区域	浅草1・2・3・4・6・7丁目、花川戸1・2丁目、雷門1・2丁目、駒形2丁目、蔵前1・2丁目、柳橋1・2丁目の全部及び西浅草1～3丁目、千束1丁目、浅草5丁目、寿4丁目、駒形1丁目の一部
---	----	--------	----	---



## 浅草地区(東京都台東区) 整備方針概要図

目標	国際観光都市としての魅力高め、新たな賑わいを創造するまちづくり	代表的な指標	観光センター利用者数 (人)	484,929 (18年度) → 570,000 (24年度)
	目標1: アクセス環境充実による集客力、回遊性の強化 目標2: 歴史・伝統文化を活かした観光都市としての魅力の向上 目標3: 隅田川の水辺の活性化		隅田公園利用者数 (人)	3,016 (19年度) → 3,300 (24年度)
	( )		( ) (年度) → ( ) (年度)	



- 公園: 隅田公園整備
- 高質空間形成施設: サイン整備

- 浅草駅バリアフリー工事
- 水上バス乗り場建替え
- 親水テラス延伸

■ 高次都市施設(地域交流センター・観光交流センター): 浅草文化観光センター建替え

□ 提案事業: 専門家派遣

■ 高質空間形成施設: カラー舗装

凡 例	
<span style="color: cyan;">—</span>	カラー舗装
<span style="background-color: yellow; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	基幹事業
<span style="background-color: lightblue; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	提案事業
<span style="border: 1px dashed black; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	関連事業

